

(別紙様式1)

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	本巣市立糸貫西幼稚園		
実 施 期 間	平成26年11月26日(水) 27日(木)		
実 施 概 要	①家族参観 ②地域の方や健寿クラブの方とのふれあい遊び		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 産業 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input checked="" type="checkbox"/> 授業公開 <input type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数	保 護 者	270 人	計 308 人
	地域関係者	38 人	
実 施 状 況	<p>&lt;ねらい&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・異年齢児や未就園児、地域の方と関わりながら、お店屋さんごっこを楽しむ。</li><li>・お店屋さんごっこを通して必要な言葉に気付いたり、言葉のやり取りを楽しんだりする。</li><li>・一人一人が発揮できる場をもち、それぞれが自分の役割を果たす。</li><li>・健寿クラブの方と触れ合いながらお店屋さんでの買い物を楽しむ。</li></ul> <p><b>年少組『カフェ』</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2日間、カフェを開いた。「いらっしゃいませ」とエプロン、マスクをつけた子ども達が入り口でお客さんたちを迎え、チケットをもらい、セルフ方式で順番に隣に動いてもらった。その都度、お盆を配ったり、ジュースを配ったりした。おやつは、「どちらがいいですか？」と声を掛け、選んでもらった。</li><li>・年長児に手を引かれてお店屋さんでの買い物も楽しむことができた。</li></ul> <p><b>年中組『〇×ゲーム』</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・みんなが楽しめるような内容やルールを考えた。年中児が中心となり来てくださったお客さんにゲームの説明をしてから、ゲーム遊びをした。</li><li>・地域の人(健寿クラブの方)と一緒にゲームをしたり、お店屋さんをまわったりすることを話しておくことで、地域の人(健寿クラブの方)と交流することに期待がもてるようにした。</li></ul> <p><b>年長組『お店屋さんごっこ』</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・年長組全体で話し合いを進め、自分のやりたいことを選択し、一人一人が役割をもち、進めていった。異年齢の子達が楽しんで参加するためにどうするとよいかを考えながら取り組んだ。</li><li>・遊戯室を“にしようじえんスーパー”にして3つのお店を開き、売り買いに必要な言葉のやりとりが楽しめるように保育者が必要に応じて声掛け等をしていった。</li></ul>		

<p>成果及び課題</p>	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの年児も主体となって取組、活動を進めていくことで、一人一人が「主役」になれるような場をもつことができ、自分達の会としての捉えができた。話し合いの場をもち、考えを出し合い進めていくことで、クラスとしてのまとまりや自分もクラスの一員という自覚や仲間とのつながりも強くなっていった。</li> <li>・年長児は、2クラスが交流し年児全体の取組として活動したことで、友達との関わりを深めることができた。自分の役割をもち取り組む中で、異年齢児が楽しめるようにと、相手のことを考えながら進めていくことができた。このことは当日、年少児と一緒にお店を回っていく中で、自然に優しい声を掛ける姿にも表れていた。</li> <li>・年中児は、どのような内容なら楽しめるかという相手の立場で考えていくことで、相手を思いやる心に気付いた。一人一人が自分の役割を意識することで、責任をもってゲーム遊びに取り組む体験ができた。</li> <li>・健寿クラブの方と手遊び等の触れ合いを楽しんだり、一緒にお店をまわったりすることで相手に合わせることの大切さも学ぶことができた。</li> <li>・年少児は、先生と一緒にカフェでお客さんを迎え入れ、品物（おやつ）を出すという経験をすることで、自信が付き、言葉を交わしながら、はりきって取り組むことができた。</li> <li>・異年齢のかかわりが深まるように、年長児と年少児のペアを決めて進めることで、お互いに気心が分かり、年長児が年少児に優しく接する姿がたくさん見られた。</li> <li>・地域の方との触れ合いが少なくなっていることでつながりができにくくなっている。しかし、この活動を通して、地域の方に子ども達の様子を知ってもらい、とてもよい機会になった。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に対して、子ども達が取組の過程の中で、主体的に取り組む姿をさらに通信で知らせていく。</li> <li>・アンケートを取り保護者や地域の方の意見を次年度に生かしていきけるような場にしていく。</li> </ul>
---------------	--